

## 第14回 道德授業パワーアップセミナーのご報告

先端教育人材育成推進機構 上廣道德・倫理教育研究開発推進室

～ ご提出いただいたアンケートの結果などをもとに ～

本学の「道德授業パワーアップセミナー（第14回）」は、右の日時と場所に置いて、対面及び Zoom によるオンラインハイブリッド化形式で行われました。

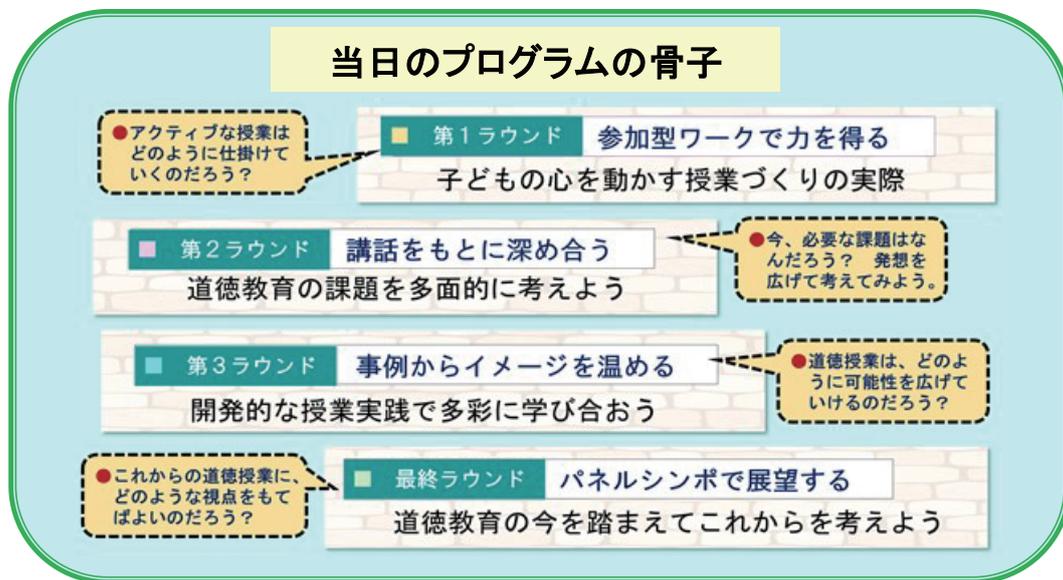
●日時 2024（令和6）年8月10日（土）  
11:00～17:00（オンラインとのハイブリッド）  
●場所 東京学芸大学 S410 教室

このセミナーは、コロナ禍の先を見据えながら、子どもたちの豊かでたくましい生き方を促すために、これからの道德教育と道德授業のあり方について、参集した皆さんで深め合い、実践的指導力を高めることを目的としています。

第14回になる今回は、第13回のテーマを発展的に継承し、以下のテーマにて開催されました。

### 令和に生かす次世代型の道德教育をつくる

セミナーは、以下に示すように、4つのラウンドに分けて行いました。午前の第1ラウンドは、授業づくりの参加型ワーク、午後からの第2ラウンドは2つの講話、第3ラウンドは3人の丹念な授業実践の事例報告、そして、最終ラウンドは、途中から来訪いただいた文部科学省の堀田竜次教科調査官を交えたパネルシンポと題した協議を深める時間を設定して展開しました。詳しくは、プログラムや当日配布資料などをご覧ください。



当日は、猛暑が続く中、東京都内や首都圏を中心に、全国から会場へご来場いただき、また、オンラインでの中継も行い、多くの方に Zoom 入室いただきましたので、合わせて400名を超える参加者の皆さんで皆さんで熱く学び合うことができました。また、お互いに熱中症への対策を行いながら、予定どおりの内容で、熱く進めることができました。ありがとうございました。

以下、当日、対面とオンラインの参加者からいただいた多数の貴重なアンケートをもとに、その日の様子をご報告させていただきます。



# 受講者によるアンケートより

終了後、対面とオンラインで参加された方々から多数のアンケートをいただきました。その中から結果をご報告します。

## 参加者及びアンケートの回答者

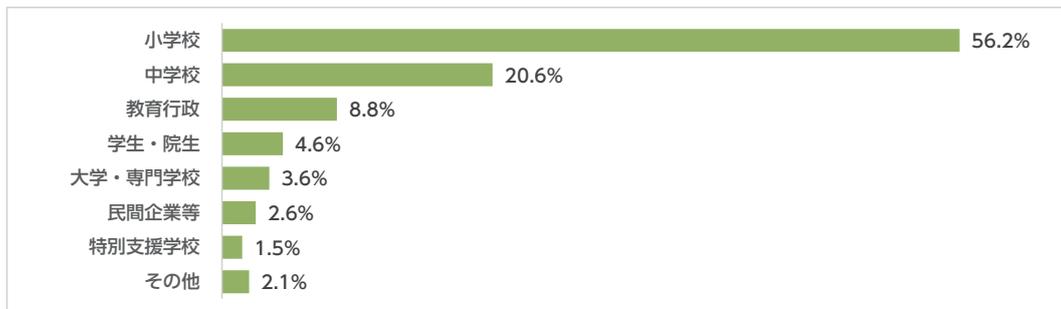
参加者は、下記左表のとおりでした。また、その中でおよそ半数弱の方がアンケートにご回答いただけました。

参加者の内訳	
対面参加者	170名
オンライン参加者	238名
合計	408名

回答者の内訳	
用紙	22名
オンラインフォーム	172名
合計	194名

## 回答者の仕事・所属先

次に、回答者の仕事・所属先について尋ねました。結果を以下のグラフに示します。

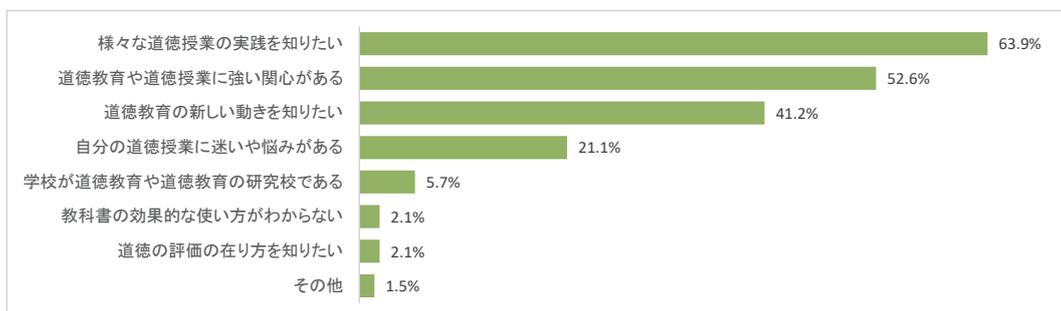


仕事・所属先別参加者人数(割合)

この結果から、本年度も昨年度同様、小学校の教員が最も多く、続いて中学校の教員が多かったことが分かります。

## セミナーに参加した理由(2つまでの複数回答)

続いて、回答者が本セミナーに参加した理由について尋ねました。結果を以下のグラフに示します。



セミナーに参加した理由(割合)

この結果から、「様々な道徳授業の実践を知りたい」「道徳教育の新しい動きを知りたい」「道徳教育や道徳授業に強い関心がある」「自分の道徳授業に迷いや悩みがある」の順に回答が多く、道徳が「特別の教科」として教科教化して数年が経つことから、今まで関心が強いと見られてきた「教科書の効果的な使い方がわからない」や、「道徳の評価の在り方を知りたい」については、本年度も極めて少ないことがわかりました。



## ■ 本日のセミナーについて感じたこと

続いて、セミナーの感想について以下の3つの項目を尋ねました。

### ■ セミナーの内容は理解しやすかったですか。

- |               |            |             |
|---------------|------------|-------------|
| 1 とても理解しやすかった | 2 理解しやすかった | 3 どちらとも言えない |
| 4 やや理解しにくかった  | 5 理解しにくかった |             |

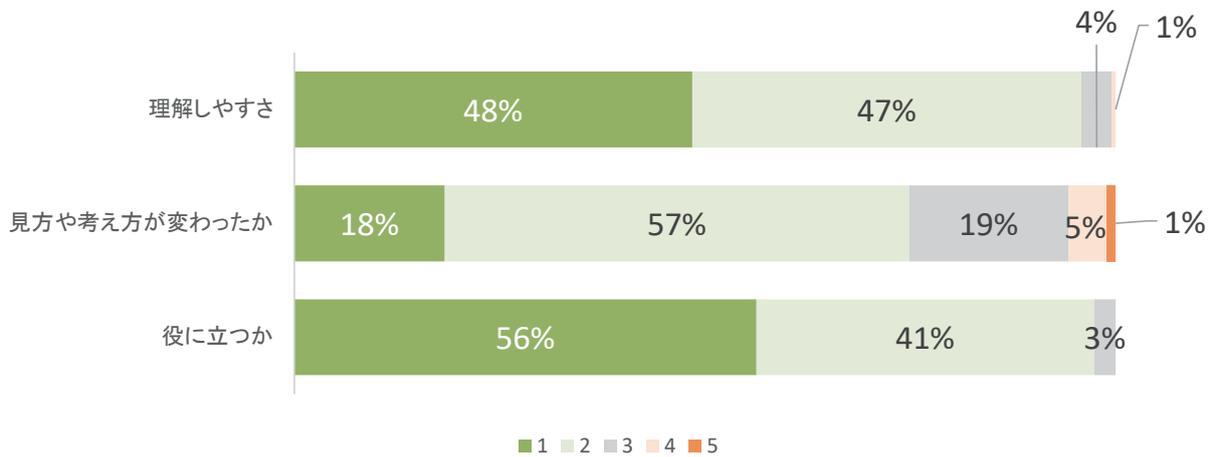
### ■ セミナーに参加して道徳授業の見方や考え方が変わりましたか。

- |              |           |             |
|--------------|-----------|-------------|
| 1 とても変わった    | 2 変わった    | 3 どちらとも言えない |
| 4 あまり変わっていない | 5 変わっていない |             |

### ■ セミナーで学んだことは、あなたの仕事や研究などの役に立ちそうですか。

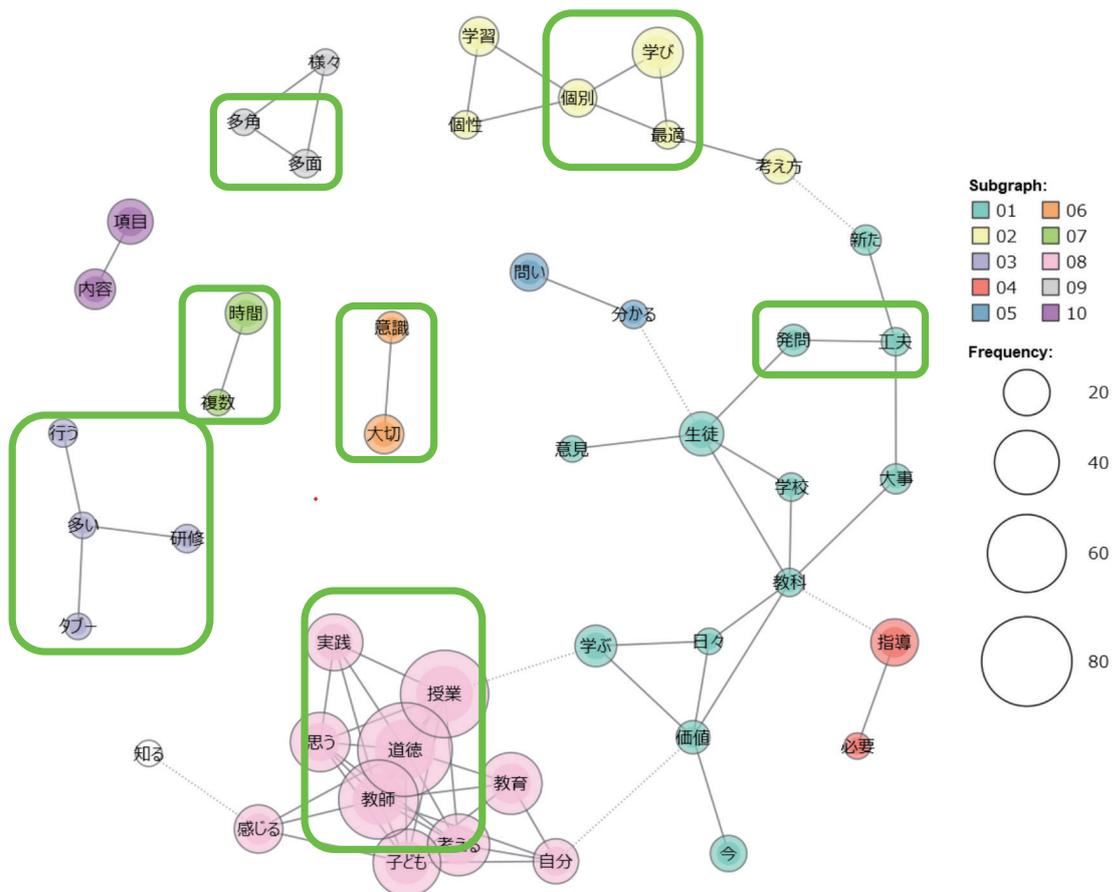
- |             |          |             |
|-------------|----------|-------------|
| 1 とても役に立つ   | 2 役に立つ   | 3 どちらとも言えない |
| 4 あまり役に立たない | 5 役に立たない |             |

結果は以下の通りとなりました。



## ■ 道徳教育や道徳授業の見方や考え方について、新たに得たことや変わったこと

上記の質問について、自由記述によっていただいた回答のテキスト分析結果を以下に示します。



テキスト分析の結果、道徳教育や道徳授業の見方について新たに得たことや変わったこととして、「多面、多角」「個別、最適、学び」「時間、複数」「発問、工夫」などが抽出されました。また、自分自身の考え方について共起した語は、「教師、道徳、授業、実践」「意識、大切」「研修、行う、多い、タブー」などでした。以上から、セミナーでは、道徳授業についての現在の関心を生かした話し合いが広く展開されたことがわかります。

## ■ 自由記述の実際から・一部

具体的には、次のような記述が見られました。

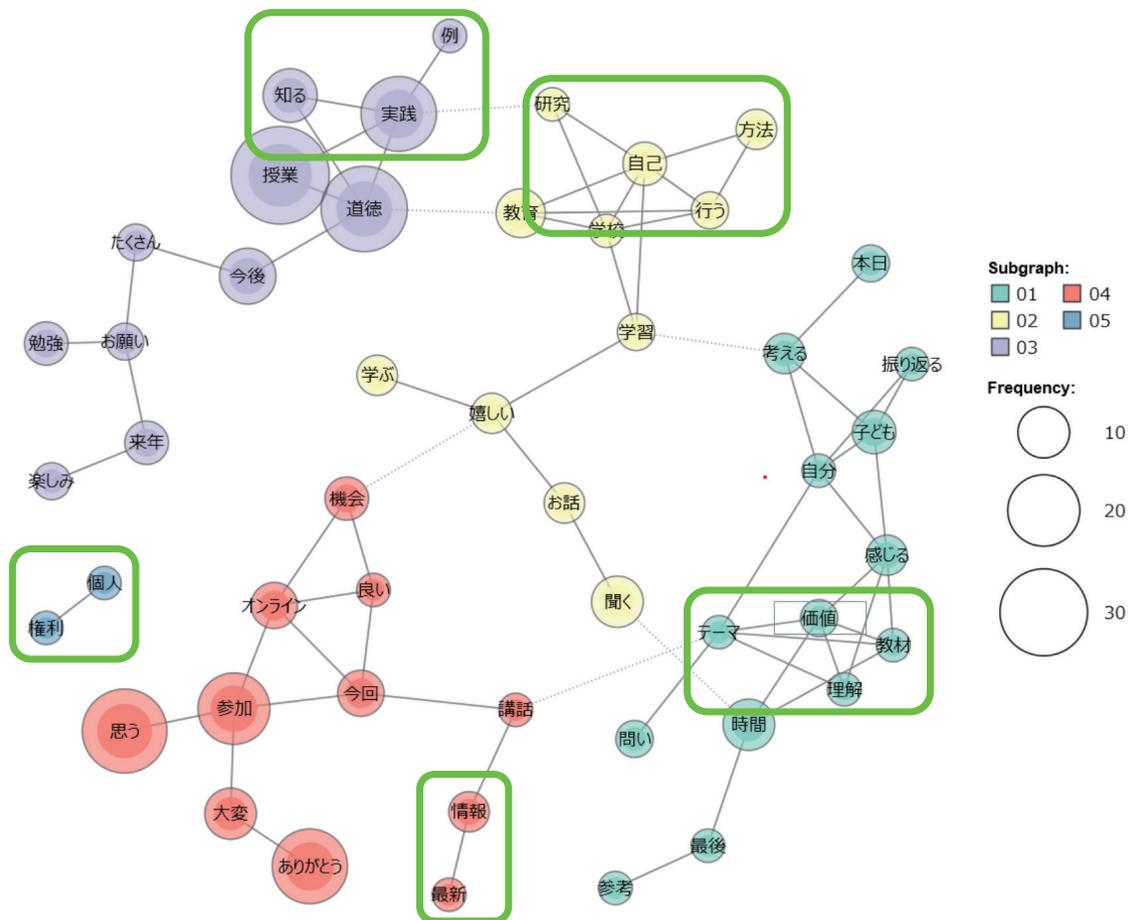
《記述いただいたものからいくつかを抜き出して、表現を簡約しています》

- ・ 進化し続けている道徳教育について、様々な実践や先生方の考えを通して学ぶことができました。子供がこれから自分でハンドルを握って生きていけるような教育を心がけていきたいと思いました。
- ・ 「子どもが問いに答える学習から子どもの問いを動かす授業へ」という言葉が印象に残っています。子どもがモヤモヤ感から問題意識をもち、主体的に考える道徳をめざしていきたいと思います。
- ・ 生徒達の見解が中心になって道徳の授業を進めていくことに対して、不安で気が引けていた部分がありましたが、発問の工夫などのヒントを多くもらうことができました。
- ・ 道徳がウェルビーイングと重なる（そりゃそうだ！でも、新たな発見！）。評価したら、子どもにフィードバックが必要。いろいろ刺激をいただき、また、頑張ろうと思える一日になりました。
- ・ 子ども主体の授業というのは、無理やり子どもが問いを作るのではなく、子どもたちが当事者になっている授業であればよいことがわかりました。

- マルクスガブリエルさんの倫理資本主義のお話、新しい視点で興味深かったです。キャリアデザインとウェルビーイングとしても、考えていきたい。
- 今まで自分自身で取り組んできた実践を肯定されるような気持ちになり、胸を打たれ、とても感動しました。これからも、悩みながらも、自分を信じてできることを積み重ねていきます。
- 時代の変化と共に変わりゆく価値や子どもたちの実態に応じた指導も日々アップデートできる教師に伴走していただけるよう私たち指導主事も日々学んでいきます。
- 教師の「教え方」よりも、子どもの「学び方」を大事にする授業づくりがこれからは求められているのだと感じました。一方で、道徳における子ども主体の授業づくりについて、個人的にまだ難しさも感じているため、本セミナーから得たことを生かして実践していきたいと思います。
- 複数時間で考えたり、内容項目を横断したりする道徳授業は深まりがありそうで実践してみたいと思いました。他の教育活動とも連携できることを私たち教師が意識していくことが改めて大切だと考えました。

## ■ 道徳教育や道徳授業に関するセミナーで、今後に期待したい内容

上記の質問について、自由記述によっていただいた回答のテキスト分析結果を以下に示します。



テキスト分析の結果、道徳教育や道徳授業に関するセミナーで今後に期待したい内容として、「実践、例、知る」「研究、自己、行う、方法」「教材、テーマ、価値、理解」「個人、権利」「最新、情報」などが抽出されました。以上から、回答者は、授業への新たな知見や、魅力ある具体的な事例を強く求めていることなどがわかります。

## 自由記述の実際から・一部

具体的には、次のような記述が見られました。

《記述いただいたものからいくつかを抜き出して、表現を簡約しています》

- 例えば「問い」一つにテーマを絞って、問いを作る上での道徳的価値観についてや、ワークをみっちりやるといった、テーマを絞った講話も魅力を感じます。
- 「VUCA（ブーカ）の時代の道徳教育、道徳授業はどうあったらよいか」というようなテーマでセミナーを企画していただけると有難い。
- 次期の学習指導要領改訂に向けた道徳授業の方向性などをもっと知りたい。
- 頑張っ研究し続けていらっしゃる先生方の実践を教えてください。また、実践だけでなく、今後も心理学や哲学の部分からの道徳についても知りたいです
- 若手の先生方への指導法の改善や工夫などあれば教えてください。
- 中学校の実践例をたくさん知りたい。高校の取組も紹介いただけると幸いです。



- 「自由進度学習」というワードに振り回されず自己を見つめる道徳科の授業を実践してもらえればと思っています。令和の日本型の教育と合わせた道徳教育のお話をもっとあれば嬉しいです。
- 毎年、様々な方法で実践を行っている先生方の話を聞くのが楽しみで刺激を受けています。これからも全国で様々な実践を行っている先生方の話が聞きたいです。



いただいた貴重なご意見やご感想を、今後の本セミナーや本学の道徳教育に関する事業全体の改善に生かしていきたいと考えています。多数の声をいただき、ありがとうございました。



東京学芸大学  
先端教育人材育成推進機構  
上廣道徳・倫理教育研究開発推進室  
WEBサイト <https://kokoro.u-gakugei.ac.jp>  
メール [kokoro@u-gakugei.ac.jp](mailto:kokoro@u-gakugei.ac.jp)